

ゆに、なんで新聞

Vol. 2

今井絵理子さんがつづぐも☆夢☆未来フェスティバルにやってきました！

沖縄県出身、1996年にSPEEDのボーカルとしてデビューした今井さん。28歳になった彼女は今、聴覚障害がある子どもの母親、シングルマザーでもあります。

自身も夢未来フェスティバル実行委員の方たちの活動と



—ここからは始める、はじまる

気持ちを声に、思いをカタチに—

を偏見の目でみたりはしない。どんな人にも笑いかけ、手を出して、自ら関わろうとしている。この発見をしてから、とても不思議な感覚があった。どんな人でも、そのひとつのいのちが『〇』なのです。

そこから、子どもはその人との関係をつくろうとしている。

ひとつのいのちの重み。子どもの方から伝えてくれる。ひとつのいのちをどこまでも大事に、〇ッ！って思うところからはじめて何かはじまる感じがし、こども夢未来フェスティバルも、そこから関係がはじめられると思えて、本当にはじまったらしいと思い、実行委員会では話を重ねる中、決まりました。

そして、「気持ちを声に、思いをカタチに—」

—母親だから、子どもだから、障害があるからといった条件付きで自分の生き方を考えてしまわずに、本当はこんな思いがあるのだと気持ちを声にしていい。その声を発信しあい受け止めあって、夢未来フ

エスの一日をどんなカタチにしていこうか。みんな、本当はこう生きられたら嬉しいよってフェスティバルをつくろう！

100日キャンペーン『知りたい』から

—絶やすことなく、その人、そのいのちと関係をつないでいたい。そんな願いがこもっています。気持ちを「知りたい—」その気持ち、「知りたいから」スタートするわたしたち。

呼びかけから100日後のこども夢未来フェスティバルでは、団体や企業、個人がさまざまな表現をしていく。

フェスティバル当日は、ここに来たみんなのいのちに『〇ッ！』そのことがあるから、ここでは、だれでもどんなことでも、「気持ちを声に、思いをカタチに—」そして、一緒にあったかい日をつくりたい。ここからは始める（きつと）はじまる—



あなたとの出会いを楽しみにしています！

こども☆夢未来☆フェスティバル2012

2012年3月4日（日）

埼玉県民活動総合センター

今井絵理子トークショー&ミニライブ

「なんくるないさあ ひとつのいのちに〇ッ！」（仮題）

小ホール 10:30~11:30

定員 300名（要申し込み）

6歳の息子さんとのエピソードと、新曲「なんくるないさあ」をお届けするトークショーです！！

～フェスティバル実行委員会～

2012年1月21日（土）13:30～

同会場・305室 保育要申込

2012年2月11日（土）13:30～

同会場・第一会議室 保育要申込

MAMAS START 母親発赤ちゃん学事始め

赤ちゃん学事始めわたしが出会った「子ども」

本当は、だれも悪くないよね。

大事にしたいこと、子どもが伝えてくれる――

まーちゃん（3歳）にヘルメットをかぶせてあげたかったあや（4歳）、まーちゃんもかぶせてもらいたかった。だけど、ベルトの留め具で、まーちゃんのお肉を挟んでしまった。痛くて、びっくりして大泣きするまーちゃん。そこには、あやの姿はない。

隣の部屋に居るあやを見ると、ピアノの端っこの鍵盤をただただ弾いていた。いつもより小さく見えた―声をかけると絶叫したように泣きだし、私の腕や足、首もとを何度も噛んできた。

泣きじやくる姿を見ながら、あやの心の声が聞こえてくるように感じた。「まーちゃんに痛い思いをさせてしまった自分、でもどうしていいのかわからない、どうやったらまーちゃんの痛かった思いを消すことができるのか、こうなっ

てしまつて自分もとても怖かった」と。

こんな事態になったことも初めてで、更にこんな苦しい気持ちにもなつて自分一人で

はおさめることができない、受け止めきれないと、もがいているあやに出会った気がした。

噛む力の強さ、痛みはあやの苦しさに比例しているように感じた。ことばで説明できない、ことばにならない、ことばにしようがない。それが噛む形で表れた。

あやの苦しき、切なさを感じ私も涙ぐんだ。

言葉にならないことを泣く形で表現している。その様な話は「あそぼうよ」のセミナーで聞いたことがあった。

「このことは、本当にそういうことなんだな」と実感した。周りの大人は誰ひとりとしてあやを責めなかった。まーちゃんも「もう痛くないよ。もう大丈夫だよ」とあやに声をかけていた。私は「痛かったね。まーちゃん、ごめんね」と言った。それは、あやがこの一言を今、伝えたいのだ

ろうなと思ひ代わりに言葉にしてあげたくなつた私だった。

（あやママ）

☆

私は9歳になる娘と二人暮らし。実家は、近所ではない。

ある日、仕事で金曜日の夜に出勤しなければならなくなつた。そのことが決まつた瞬間に、娘のことをどうしよう、学童の迎えにもいけないし、夜ひとり置いていくのは心配だし、かわいそうだと思つた。

―日々は流れ、あつという間に夜勤務の一週間前になつた。夜九時まで働いて帰るのは十時半そして翌日も朝から仕事だ。実家の両親も仕事を

して来てはもらえなかつた。私は、職場の近くに住んでいる友達にそのことを相談して、金曜から娘を泊めてもらうことにした。

お友達にも5歳の娘がいて、娘同士も友達。前からお泊りの約束もしていたので、二人はとても喜んだ。そのことが決まるまでの不安がウソのように娘は、とてもうれしそう。私も、ほつとした。

―土曜。お昼に終わるはずの仕事が終わらない。午後二時に終わつてお友達の家に向

りがとね」と何回もいいながら中に入つた。

すると、なぜか、娘が泣きながら私に寄つてきた。私のことをぎゅつと捕まえて、「なんで、私は悪いことしてないのに、ごめんねっていうの？なんにも悪いことしてないのに。ママも悪いことしてないのに」涙いっぱいに、そう言った。

私は、「はつ」とした。「ごめんね」や「すみません」をいつも言っている自分がいた。娘は自分の存在が「迷惑」と言われて、ここにいられない気持ちになつてい

のに、なんで事件簿



ある日の夕方、私は友人と話し込んでいた。4歳の娘が、「おなかすいたー」とやってきた。私「もう少し待ってて！あと少しで帰るから」娘「やだ、今なにか、たーべーたーいー！」

私は、夕飯の事を思い、今はおやつをあげたくない。その事に気がついた友人が、「ほーら、こんなに小さかったのよ。」と娘が赤ちゃんの時の写真を見せてくれた。が、しかし…

「それじゃ、おくちに入らないでしょ！！」と、娘はさらに機嫌が悪くなつてしまった。

（hakama）

こども☆夢☆未来

フェスティバル 2012 で、
シングルマザーのサロン
を開催します。
10:30~12:00(予定)

シングルマザーという生き方の選択に〇ッ！みんなで本当はどう生きていきたいか考え、話しましょう。

主催：ヒトリミナカプロジェクト
問合せ：彩の子ネットワーク事務局

としては、本当に大変で、「ごめんない」「すみません」と言いながら、手を借りないで生きていかれないのだ。本当は、娘にそんな思いはさせたくない。本当は、みんなに「たたいま」といって、お迎えに行き、「おかえりー」の声を抱きしめたい。

（ヒトリミナカマ）

子育てしている当事者が自分たちに必要なことを、自分達でつくる、上尾市つどいの広場「あそぼうよ」。小さな子どもを育てている母親がスタッフをしています。「子育てサロン」で自分の気持ちを話したり、「セミナーべるべる」で子どものことを学んだり。スタッフをしながら母親である彼女たちは、子どもや周囲の人とどんな関係がほしいかを探している格闘の日々です。あそぼうよで子連れスタッフをしている2歳の子どものお母さんに聞きました。

Q. スタッフをやっている、どんなことを思っていますか？

「スタッフとして動かなきゃいけないと思ってしまい気持ちだけが焦ってしまったり、『子どもの側から考えてみる』それがそう思えないことの方が多い私がスタッフをしていていいのかなと思うときがあります。」

スタッフになったばかりの頃は、子どもが私と一緒にいたいよ、抱っこして欲しいよって来たときに、本当は私もそうしたいのに『待つて』と言

ってしまうことがあった。それが周りに伝えられなくて辛かったけど、今はそういう時は言えるようになった。とても気持ちが悪くなった。人に自分の気持ちが言えるようになった私は変わったなと思う。利用者さんに、スタッフで大変だねとか言われる。大変なことも多い。でもそれって仕事が多いから大変なんじゃなくて、自分の気持ちと向き合うのが時には辛くなることもあって、それが私の中では大変

なんだと思う。でもそれ以上に子どもも自分もたくさんの人に支えられて毎日過ごしていることが、私はスタッフとしてよかったなと思う」

Q. スタッフをやるようになって、たくさんの人の中での子育てが変わったんだね。だけど、スタッフをやっているっていいのかなと思ってしまったりもありませんか？

「自分の気持ちは言えるようになった」は、少し違うかも。やっぱり全部は言えてないな。そう思えないってことを声にするって大切なんだなと思うんだけど、やっぱりどこかで言わないようにしている自分がいる。それは何でだろう？自分を否定されるんじゃないかって怖いからかな。今までも自分の事を言うって、頑張ってるって自分の周りだったり、自分の気持ちが壊れちゃう気がしてきたから言わないできた。自分の気持ちは言ってもいいじゃないかと思ってきた。母親や私を知る人から私はよく言われた『いい子、しっかりしてる子』ワガママを言わない！本当はそうじゃないって言いたいのに言えなくてそれが辛かった」

そのままの気持ちを伝えてくれて、ありがとう。「子どもの側から考えてみる」それがそう思えないってどんな時なのか、よかつたらそれをまたやりとりさせてほしいなあと思いました。そう思えないのはいけないのではなくて、思っていることを言っても大丈夫なんだっていう関係が、私たちはほしいから。人には、言えない気持ちがあることを知っている人がスタッフをしていくことを大事にしていきたいです。(れいこ)

我が家

1歳のもぐもぐタイム



いただきまーす！今日もスプーンに挑戦だ！なかなか難しいな。よしよし、よしよし...



やったあー！(〇〇)！あーんっ、パクっ...？？あれ？スプーンの中身はどこへ



今度こそ！スプーン二刀流で逃がさないぞー。

(taru*)

そろそろごちそうさまかな？ごはんで遊びが始まったら、わたしはお片づけ

それは、赤ちゃんの泣き声から始まった：

今やれることを、やるんだ。

—子どもが生まれた時、自分の意思とは関係なく、

毎日が押し寄せてきた—

震災であたりまえの生活から放り出された

人々の「大変」を思った……。

鈴木玲子

《第二回》

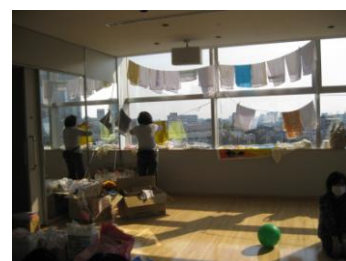
ボランティアセンター立ちあげの会合の中で、「埼玉県男女共同参画推進センター WithYou さいたま」が協力するという声が聞こえ、その日のうちに、夜、計画停電で暗い WithYou に行き、その施設で何ができるかを所長さんや職員の方と相談しました。自宅に帰り、深夜、彩の子ネットの桐原陽子とふたりで資料をみて、明日からの動きを検討し、WithYou から紹介された薄井篤子さんに明日から来てほしいとメールしました。

また、上尾市つどいの広場「あそぼうよ」やさいたま市子育て支援センター「さいのこ」は通常通り開館していました。

彩の子ネットワークからアリーナに人を出せる状況ではありませんでした。

3月4日(日) こども☆夢☆未来フェスティバル 小ホールでトークセッション「震災から一年、あなたのことを忘れない」(仮題)を行う予定です。アリーナでのボランティアから今も騎西高校に通っている被災者支援ボランティア「福祉班」の方たちと双葉町民とともに、あの時にこんなことがあったねと話合います。

翌日の朝、中泉理奈(当時、こども夢未来フェスティバル副推進室長)から電話があり、「私はアリーナに行く方が役に立つと思う。今、本当に必要なのところに行きたい」と翌日からさいたまスパーアリーナにかけつけてきました。その時、こども夢未来フェ



まず、「保育班」の看板と、テーブルを自分で設置し、薄井・中泉・鈴木の3人で WithYou

のシャワー室を活用して子どもたちの沐浴ができるようにしようと計画しました。

何千人もの大人を一度に受け入れることはできないから、まず子どもだけにしよう、1回に何人位を受け入れることができるのか、アリーナから WithYou まで道案内する人が必要だ、シャワーの受付にも人が必要、どんなアナウンスをして知らせようか、3日まで続けられるようにボランティアの確保はどうするか等々話し合いました。

そして、ホクソンベビー(株)に電話してベビーバスをシャワーの数だけ持ってきてもらい、その日の午後から赤ちゃんたちの沐浴ができるようになりました。

その日から、ボランティアセンターの組織では、毎日3回、班長会を開き動いていま

した。夜の班長会で、今日は20人の子どもたちがシャワーを使うことができた、報告したところ、嬉しいことだと皆で喜びました。

その翌日、私は起きた時から、昨日はシャワーはできたけれど、アリーナの中にいたい何人の赤ちゃんや子どもや妊婦さんがいるのか、どんな状態の人がいるのか分からないで一日過ぎてしまったと心配な思いになりました。間に合わないのは嫌だ、間に合うようにやりたい。今日は住居スペースに入って、聞き取りするチームを作ろうと心に決めて、電車に乗り、どう動かすかをイメージしながらアリーナに向かいました。(つづく)

「あげおヒューマンライツミーティング 21 人権のつどい」で話しました。

2011年12月10日(土) 上尾市人権推進室主催

もしも私たちの町に震災が起きたら……

普段、地域でどんな関係の中で生活しているのかに関わるはず。私たちは本当は、どんな関係がほしいのかを考えました。

講師：薄井篤子(東京理科大学非常勤講師)

パネリスト：鈴木玲子、山辺素史(上尾市社会福祉協議会)

コーディネーター：渡邊寛



編集後記

中泉 理奈

子どもとのエピソードは、子ども側からすると、どんなことが起っているだろう。編集会議では、掲載を決める前にエピソードの起こりや気持ちの動きなどを話している。それが、とてもおもしろい。「本当はどうだったのか」「本当はどうしたい自分なのか」と改めて考えるきっかけにもなる。この新聞は、読んでいるあなたのエピソードと一緒に考えたいという思いで発行している。あなたのエピソードと一緒に考えられた時、この新聞に掲載されているエピソードについて一緒に考えられた時、のになんで新聞が、本当に私たちに与える『発行』となるのだろうかと思う。

次回は、子ども夢未来フェスティバル特集。ワクワクと葛藤をお届けしたい。

ご意見・ご感想をお寄せください。また、掲載希望記事もお持ちしております。(掲載要相談)

「のに、なんで新聞」

平成 23 年 11 月 30 日発行

発行 vol.2

編集人：中泉理奈

発行人：鈴木玲子

発行所：NPO 法人彩の子ネットワーク

〒362-0017

埼玉県上尾市二ツ宮 1156-3

TEL：048-770-5272 FAX：048-770-5270

E-mail：office@sainoko.net

HP：http://www.sainoko.net/